

更新日 2014 年 06 月 06 日

デジタルKVMスイッチ(8ポート)[PG-SBD108], デジタルKVMスイッチ(16ポート)[PG-SBD116],  
デジタルKVMスイッチ(32ポート)[PG-SBD132]

## (1) 概要

本装置は、1 セットのモニター/キーボード/マウスで複数のサーバを切り替える機能に加え、ネットワーク経由でリモート端末から複数のサーバを切り替える機能を備えています。

PG-SBD108/SBD116/SBD132 は、それぞれ 8 台/16 台/32 台のサーバを切り替えることが可能です。また、本装置にアナログ KVM スイッチ(PG-SBA108/SBA116)をカスケード接続することにより、接続できるサーバを増やせます。

最大構成はアナログKVMスイッチ(16ポート)32台で512台のサーバを接続できます。

本装置は、外付設置またはラックへの水平搭載が可能です。



図1 外観写真 (8ポート、16ポート、32ポート共通)

## (2) 特長

### ① 19 インチラックへの搭載が可能

本装置は、添付の Rack Mount kit 取り付け金具により 1U のスペースで水平方向にラック背面側に搭載可能。(図 4 を参照)

※ スタンダードラックの縦置き設置領域、ラック前面側への搭載はできません。

※ フラットディスプレイ(PG-R1DPx/R2DPx/R4DP1) への背面搭載はできません。

### ② サーバへのアクセス

本装置は、従来からのローカルコンソールでのサーバ管理、アクセスに加え、セキュアなりリモート端末からもサーバ管理、アクセスが可能です。

### ③ ユーザーインターフェース

本装置は、ローカルポート UI と OBWI により接続サーバを切り替えます。

ローカルポートにコンソールを直接接続することにより、ローカルポート UI を使用して GUI 感覚で KVM スイッチを管理できます。また、リモートの OBWI(On-Board Web Interface)を使用し、ローカルポート UI と同じ感覚で KVM スイッチを管理することができます。OBWI は Web ブラウザベースで、KVM スイッチから直接起動されます。

### ④ カスケード接続機能

本装置は、アナログ KVM スイッチとカスケード接続が可能ですので、将来のシステム規模拡大へ柔軟に対応できます。

なお、アナログ KVM スイッチ(8ポート)とアナログ KVM スイッチ(16ポート)の混在接続も可能ですので、接続サーバの台数にあわせた最適な構成を構築できます。

※ デジタル KVM スイッチ(PG-SBD1xx)同士のカスケード接続はできません。

※ 従来モデルの KVM スイッチ(PG-SB10x/SB20x)との混在接続はできません。

⑤ UTP ケーブル(CAT5 または CAT6、最長 30m)による接続

本装置は、KVM アダプターケーブルとの接続に UTP ケーブルを使用するため、ケーブル量を低減することができます。

※ 従来モデルの KVM スイッチ(PG-SB10x/SB20x)用 KVM ケーブルを使用することはできません。

(3) 仕様

名称		デジタル KVM スイッチ (8 ポート)	デジタル KVM スイッチ (16 ポート)	デジタル KVM スイッチ (32 ポート)	(参考:従来モデル)
型名		PG-SBD108	PG-SBD116	PG-SBD132	PG-SB206
接続サーバ数		8 台	16 台	32 台	8 台
カスケード接続		デジタル KVM スイッチ(8 ポート)をプライマリとした場合: セカンダリに 8 台のアナログ KVM スイッチ(16 ポート)を接続時、最大構成で 128 台のサーバが接続可能 デジタル KVM スイッチ(16 ポート)をプライマリとした場合: セカンダリに 16 台のアナログ KVM スイッチ(16 ポート)を接続時、最大構成で 256 台のサーバが接続可能 デジタル KVM スイッチ(32 ポート)をプライマリとした場合: セカンダリに 16 台のアナログ KVM スイッチ(16 ポート)を接続時、最大構成で 512 台のサーバが接続可能			最大構成は 8 ポート KVM スイッチをマスターとし、8 台の 8 ポート KVM スイッチを接続した場合で 64 台のサーバが接続可能
ローカルユーザ数		1	1	1	←
ローカル KVM セッション数		1	1	1	←
リモートユーザ数		1 以上	1 以上	1 以上	なし
最大リモート KVM セッション数		1	2	4	なし
サーバとのインターフェース仕様		・モニター:アナログ RGB ・キーボード/マウス:PS/2 または USB (KVM ケーブルおよび KVM アダプターケーブルによって異なる)			←
接続コネクタ 詳細は図 2を参照	ローカルポート	VGA D-SUB15PIN メス X1 (接続可能デバイス:LCD) USB A タイプ X4 (接続可能デバイス:キーボード/マウス/USB メモリ*) *KVM 設定情報の保存/復元用			モニター:VGA D-SUB15PIN メス x1 キーボード:PS/2 ミニ DIN 6PIN メス x1、USB A タイプ x1 マウス:PS/2 ミニ DIN 6PIN メス x1、USB A タイプ x1
	リモートポート	RJ45 メス X2 ※冗長時のみ 2 ポート有効			なし
	サーバポート	RJ45 メスx8	RJ45 メスx16	RJ45 メス x32	D-SUB15PIN メス x8
サーバ表示および切り替え方法		ローカル:ローカルポート UI リモート:WEB ブラウザ上の OBWI			ローカルのみ:2種類のホットキーモードが可能。
オートスキャン		・ローカル 選択したサーバを一定間隔で自動的に切り替えることが可能。切り替え周期は 3~255 秒の範囲で変更可能。 ・リモート 選択したサーバ(最大 16 台)をサムネイル画面で表示し切り替えることが可能。表示時間 10~60 秒と接続間隔 5~60 秒が設定可能。			ホットキーモード移行後、数字0キー押下によりオートスキャンモードに移行。一定期間でサーバを自動的に切り替え可能。
VCCI		クラス A			←
質量		3.0kg	3.2kg	3.4 kg	約 1.7kg
外形寸法 (WxDxH)		431.8mmx233.7mmx43.7mm (H にゴム足約 1.5mm 含まず)			432mmx125mmx42mm (H にゴム足 3.0 mm含まず)
入力電源		AC 100-240V、単相、50/60HZ			←
最大消費電流		AC 100-240V、1.25A			AC100V-AC240V/0.3A
消費電力(TYP.)		15 W	18W	24W	7.6W

<p>添付品</p>	<p>保証書 1部 マニュアル CD 1枚                  はじめにお読みください 1部 安全上のご注意 1部                  クイックインストールガイド 1部                  ゴム足 4個(外付使用時)                  電源ケーブル(3M) 1本(NEMA 5-15 準拠)                  RACK MOUNT KIT(金具 2個、金具取り付けネジ[8-32X5/16INCH]4本)                  ラック取り付け用ネジ(M5X12) 4本                  ケージナット(M5) 4個</p>	<p>保証書 1部                  取扱説明書 1部                  ゴム足 4個(外付使用時)                  電源ケーブル(2M) 1本                  ラック取り付け金具 2個                  ラック取り付け金具用ネジ                  (M3X6) 6本                  ラック取り付け用ネジ(M6X                  15) 4本                  ケージナット 4個</p>
------------	--	---

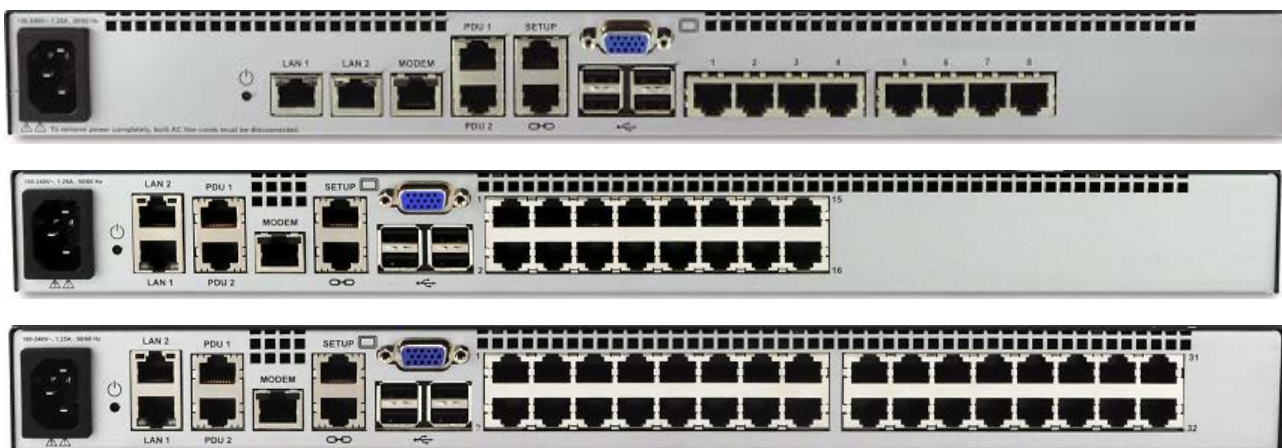


図2 装置背面図 (上段 : 8ポート、中段 : 16ポート、下段 : 32ポート)



図3 装置正面図 (上段 : 8ポート、中段 : 16ポート、下段 : 32ポート)



図4 本装置を19インチラックに搭載時の外観写真

(4) オプション関連 (別途手配品)

名称	型名	仕様・適用			(従来モデル)
		デジタル KVM スイッチ (8 ポート) [PG-SBD108]	デジタル KVM スイッチ (16 ポート) [PG-SBD116]	デジタル KVM スイッチ (32 ポート) [PG-SBD132]	KVM スイッチ (8 ポート) [PG-SB206]
KVM アダプターケーブル (PS/2) 図 5 を参照	PG-CBLPA1	本装置とサーバ本体(PS/2 インターフェース)を接続するために必要な専用 KVM アダプターケーブル(接続サーバ台数分必要) また、本装置同士をカスケード接続する場合、本アダプターケーブルの使用が必須となります。 ※ツイストペアケーブルは、アダプターケーブル本数分必要です。 ※カスケード接続時は、接続サーバ本数に加えカスケード接続用のケーブル本数が必要となります。 例:本装置 1 台で 8 台のサーバを接続 → 8 本(8+0)必要 本装置 3 台で 20 台のサーバを接続 → 22 本(20+2)必要			互換性なしのため、使用不可
KVM アダプターケーブル (USB) 図 6 を参照	PG-CBLUA1	本装置とサーバ本体(USBインターフェース)を接続するために必要な専用KVMアダプターケーブル(接続サーバ台数分必要) ※ツイストペアケーブルは、アダプターケーブル本数分必要です。 ※カスケード接続には使用できません。			
KVM ケーブル (USB) 図 7,8 を参照	PG-CBLUD2 PG-CBLUD3	本装置とサーバ本体(USB インターフェース)を接続するために必要な専用 KVM ケーブル(接続サーバ台数分必要) ケーブル長は PG-CBLUD2 が 2.1M,PG-CBLUD3 が 3M の固定となります。 ※ツイストペアケーブル一体のため、追加手配は不要です。 ※カスケード接続には使用できません。			
ツイストペアケーブル(カテゴリ 5)	TPCBL-B005 TPCBL-B010 TPCBL-B015 TPCBL-B030	KVM アダプターケーブル 1 本につき、1 本必要。 ※30M 以下のケーブルのみ使用可能です。			
200V 用電源ケーブル	PG-CBLPU04	AC200V 対応電源ケーブル(NEMA L6-15) 丸型プラグ。ケーブル長 3M。UPS に接続可			
200V 用電源ケーブル	PG-CBLPU05	AC200V 対応電源ケーブル(EC603200-C14) PDU 接続用。UPS との接続は未サポート。ケーブル長 3M。			←

(5) 規格の取得状況

安全規格	IEC 60950-1(ed.2), UL60950, CSA60950
電気用品安全法	対象外(添付およびオプション電源ケーブルに関しては適合品を採用)
電波規格	VCCI クラス A
RoHS 指令	対応済み
J-MOSS (日本版 RoHS)	対象外
グリーン購入法	対象外



図 5 KVM アダプターケーブル(PS/2)



図 6 KVM アダプターケーブル(USB)



図 7 KVM ケーブル(USB)2.1m



図 8 KVM ケーブル(USB)3m

### (6) 接続形態

接続形態は、図9をご参照ください。

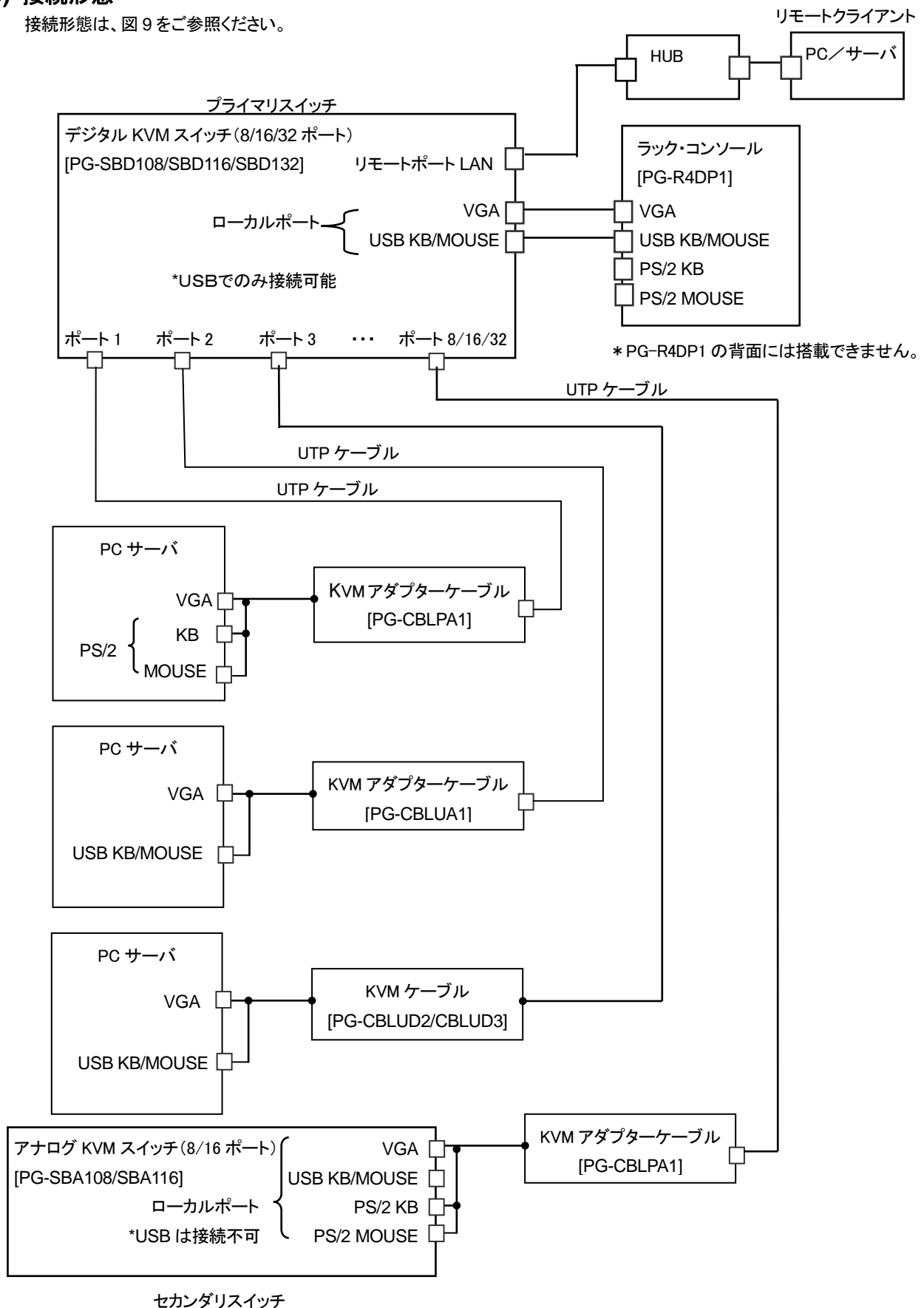






図9 接続形態図

**(7) 留意事項**

- ① 旧 KVM ケーブル(PG-CBLDPxx)はすべて使用できません。
- ② KVM アダプターケーブル及び KVM ケーブルの識別について

名称	型名	ラベル表示
KVM アダプターケーブル (PS/2) 図 5 を参照	PG-CBLPA1	MPN:520-326-509/510/511 
KVM アダプターケーブル (USB) 図 6 を参照	PG-CBLUA1	MPN:520-327-510 
KVM ケーブル(USB) 図 7 を参照	PG-CBLUD2	MPN: 520-649-501 
KVM ケーブル(USB) 図 8 を参照	PG-CBLUD3	MPN: 520-649-502 



## ③ KVM スイッチの交換について

ローカルポートの LCD については、本装置の電源切断後に取り外します。それ以外については本装置が電源投入状態でも取り外し可能です。

KVM スイッチ交換後、各種設定(ネットワーク設定、ユーザーアカウント設定など)が必要になります。詳細はマニュアル CD 内の『KVM SERIES 4-0812/1622/3242 インストラ/ユーザーガイド』を参照してください。

サーバ名称については KVM アダプターケーブルまたは KVM ケーブルに情報が保持されるので引き継がれます。

また、カスケード接続されたアナログ KVM スイッチ(セカンダリスイッチ)を交換する場合は、サーバ名称はカスケード接続用 KVM ケーブルに保持されるので引き継がれますが、KVM アダプターケーブル及び KVM ケーブルが接続されているサーバポートの順番がかわるとサーバ名称も変わるため、交換前にセカンダリスイッチと KVM アダプターケーブル及び KVM ケーブルが接続されているサーバポートを記録し、交換後に復元できるようにすることを推奨します。

アプライアンス構成、ターゲットデバイス構成、アプライアンスユーザーデータベースを保存/復元する機能を利用できます。詳細はインストラ/ユーザーガイドの『3.3.2 概要』のツールを参照してください。(アプライアンス:KVM 本体を示します。)

## ④ KVM アダプターケーブル及び KVM ケーブルの交換について

本装置側のサーバポートについては、本装置の電源投入状態でも取り外し可能です。

KVM アダプターケーブル(PS/2)については、サーバ本体の電源切断後に取り外します。

KVM アダプターケーブル(USB)、KVM ケーブル(USB)については、サーバ本体が電源投入状態でも USB コネクタは取り外しできますが、ビデオコネクタはサーバ本体の電源切断後に取り外します。

プライマリスイッチに接続されている KVM アダプターケーブル、KVM ケーブルについては交換後、サーバ名称の再設定が必要になります。

なお、カスケード接続用のケーブルについては交換後、セカンダリスイッチの全サーバポートのサーバ名称を再設定する必要があります。通常運用時からセカンダリスイッチの全サーバポートのサーバ名称を必要に応じて控えておき、万一交換発生時に復元できるようにすることを推奨します。

また、セカンダリスイッチに接続されている KVM アダプターケーブル、KVM ケーブルについては交換後、サーバ名称の再設定が不要です。

ターゲットデバイス構成を保存/復元する機能を利用できます。詳細はユーザーガイドの『3.3.2 概要』のツールを参照してください。

## ⑤ KVM アダプターケーブルには必ず UTP ケーブルの手配が必要になります。KVM ケーブルについては、UTP ケーブル一体のため、手配不要です。

## ⑥ カスケード接続用のケーブルは、KVM アダプターケーブル(PS/2)[PG-CBLPA1]のみ使用できます。

## ⑦ 本装置同士のカスケード接続は未サポートです。アナログ KVM スイッチのみがセカンダリスイッチとしてカスケード接続可能です。また、従来モデルの KVM スイッチ(PG-SB10x/SB20x)との接続はできません。

## ⑧ カスケード接続した場合には、セカンダリスイッチのポート数を設定する必要があります。『3.3.12 ポート-カスケードスイッチ』を参照してください。

## ⑨ KVM スイッチのラック搭載について

ラックの通常設置領域への搭載(水平方向)は、背面のみの搭載になります。(前面への搭載はできません。)

## ⑩ 本装置のローカルポートには画面表示の自動調整機能がありません、表示位置がずれた場合は表示装置の自動調整で表示位置を調整してご使用ください。

- ⑪ 本装置のリモートビューアの自動ビデオ調整は黒以外の色をトリガに位置調整を実施するため、黒背景などでは正しく表示できない場合があります。正しく表示させるためには、ユーザーガイドの『4.3.3.10 自動ビデオ調整』を参照してください。
- ⑫ カスケード接続されたポートについては全ポートが表示され、未接続時のサーバを非表示にする「オフラインの削除」ができません。
- ⑬ 日本市場でサポートされない機能について
- SETUP ポートを含むシリアル接続、モデム接続、PDU 接続、カスケードポートを使用したカスケード接続
  - バーチャルメディア機能(スマートカード機能を含む)
  - s4 クライアントソフトウェア
  - 緊急用パスワード
- ⑭ 本装置には電源スイッチがありません。電源ケーブルの接続・取り外しによって本装置の電源投入・切断を実施します。なお、背面の電源LEDは、電源ケーブルの接続から数秒後に点滅を開始し、正常起動すると点灯状態になります。また、点滅が数分間継続する場合は装置が故障しているため、交換が必要になります。
- ⑮ 本装置はローカル UI、OBWI から再起動できます。詳細はユーザーガイドの『3.3.2 概要』のツールを参照ください。
- ⑯ ネットワークが未設定の状態でもローカルUIのユーザー認証を無効にし、かつ、アクセスレベルをアプライアンス管理者以外に設定すると、リモート接続が無効となりアナログKVMスイッチ機能のみになります。デジタルKVMスイッチ機能を復元するためには装置交換が必要になります。
- ⑰ 本装置は接続するサーバの動作環境温度内でご使用ください。
- ⑱ OBWI接続について
- 次の条件でデジタル KVM スイッチにアクセスすると「このページは表示できません。」または「セキュリティ証明書には問題があります」と表示され、ログイン画面が表示されないため、ログインできません。
- ・リモートクライアントに Internet Explorer を使用 し、かつ、Microsoft 社の更新プログラム (KB2661254) をインストール済み
  - ・デジタル KVM スイッチのファームウェア版数が 1.8.1.17970 以前
- 次のいずれかの方法で回避できます。
- 1) 更新プログラム (KB2661254) をインストールしない。インストールした場合はアンインストールする。
  - 2) 更新プログラム (KB2661254) のインストールが必要な場合は、以下の URL を参照し、許可される最小の RSA キーの長さを 1024 ビットから 512 ビットに変更する。なお、参照 URL の記載内容をよく確認の上、適用すること。  
<http://support.microsoft.com/kb/2661254/ja>
  - 3) 本製品の最新ファームウェアを適用する。ファームウェアは次の URL からダウンロードできます。  
<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/>
- ⑲ BX920 S3/BX924 S3/BX924 S4への接続について
- KVMケーブル(USB)[PG-CBLUD2/PG-CBLUD3]を使用してBX920 S3/BX924 S3/BX924 S4に接続することはできません。BX920 S3/BX924 S3/BX924 S4に接続する際は、KVMアダプターケーブル(USB)[PG-CBLUA1]をご使用ください。
- ⑳ システム構成図(外付編)のKVMスイッチ使用時の留意事項について
- PRIMERGY(旧サーバ)とKVMスイッチの接続可否に関する表で×非サポートと記載されている組み合わせは、基本的には評価が未実施のためです。

以上